

串間市立都井小学校の学力向上への取組

1 平成17年度の本校の学力調査結果及び意識調査結果から見た課題

(1) 学力調査結果からの課題

- 個人差が大きく、上位児童と下位児童の到達度に大きな開きがある。
- 国語においては、聞く・話す力が低い。
- 算数の到達度が、他教科に比べて低い。
- 全教科において、思考を伴う問題の通過率が低くなっている。

(2) 意識調査結果からの課題

- 学習意欲が低く、学習スキルが身に付いていない児童が見られる。
- 自己成長力が低く、将来に対しての見通しをもっていない児童が多い。
- 毎日の家庭学習において、宿題は全員しているものの、学習時間が短い。

2 学力向上に向けた課題解決への具体的な取組

(1) 学力向上に向けた経営方針

学力の確実な定着をめざします

- ・基礎的・基本的事項の確実な定着
- ・家庭における学習環境の整備
- ・学び方の習得を図る指導の推進
- ・読書活動の推進

(2) 教育課程内の取組

① 基礎的・基本的事項の確実な定着

ア 「読む力」・「書く力」・「計算する力」を高める日常指導

- 「朝の活動」の時間を全校で統一し「漢字タイム」「計算タイム」「言葉タイム（視写）」とし、同様の内容での取組を行う。
- 「基礎・基本の時間」の設定
月2回、木曜日を特別校時にして、特設時間を設定し、パソコンのソフト「計プリっ子」「漢プリっ子」を活用する。既習内容の計算・漢字の復習を行い、定着・習熟を図る。



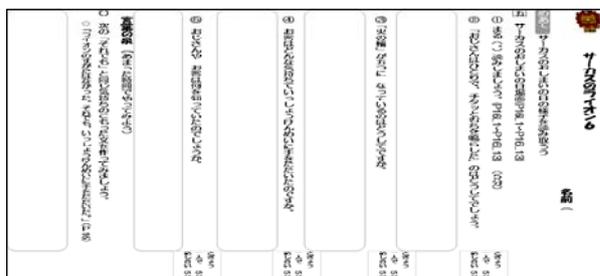
- ①パソコンからプリントを印刷する。
- ②問題を解く。
- ③自分でパソコンを見て解答する。
- ④次のプリントを印刷する。
- ※ 上記の繰り返し

イ 各学級における学習指導の充実

基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るため、漢字・計算等の繰り返し指導や指導方法の工夫、問題解決的な学習の充実に努め、児童の学力の確実な習得に努めている。

- 実践例 ワークシートの活用

学習を効率的に進めるために、「めあて」「課題」「学習の流れ」を明記した自作のワークシートを毎時間、用意している。また、『言葉の泉』コーナーを設け、漢字や短文などの言語事項の基礎・基本の定着を目指している。



<ワークシート例>

② 複式学級に対する共通理解及び指導体制

複式学級における基本的な考え方を共通理解し、全職員が相互に関わり合いながら指導できる体制作りを行っている。また、ガイド学習を充実し、児童が自分たちで立てた学習計画をもとに共同で学習を行っている。このような学習形態を組むことで、主体的な学習態度を育成できるとともに、お互いに高めあう学習集団ができると考える。

2年と3年、4年と5年が複式になっているため、次のような体制で指導にあたっている。

- 2年生・・・算数科～教頭が指導、生活科～1年生との合同学習
- 4年生・・・理科～1年担任が月・水・金（1年生が4校時授業の日）に指導
- 5年生・・・算数科～教頭が指導、家庭科～6年生との合同学習

(3) 教育課程外の取組

① 読書活動の推進

ア 朝の読書活動

- 健康観察後の10分間、毎日、読書タイムを設定している。
- 担任による週1回の読み聞かせを実施している。
- 読んだ本は、各自が「読書の木」に記録する。意欲付け内容や読書量の目標設定に活用する。

イ 読書へ意欲をもたせるための工夫

- 「読み聞かせ」の充実を図るため、外部から講師を招き、読み聞かせ会を実施している。



<読み聞かせの様子>

② 放課後学習の実施

本校では、児童の居住地が遠いため、バスで登下校を行っている児童がいる。その児童を中心に放課後学習を実施している。教師は輪番で指導にあたり、児童の学習状況を把握して称賛したり、指導をしたりしている。自分の担当学年にこだわらずどの学年の児童にも個別に指導にあたっている。現在では、80パーセント以上の児童が参加している。

(4) 保護者・家庭、地域との連携

① 中学校との連携

- 都井小・中学校合同授業研究会の実施により、9年間を見通した学力向上の手立てを図る。
- 授業に関する協議のほかに、基礎・基本の指導についての話し合い、情報交換、要望等を行っている。

② 保護者との連携

- 小・中合同研修会の中で協議した家庭学習の手引きを作成し、参観日等に手引きの説明を保護者に行い、学校の基本的な考え方を説明した。本年度は実践を重ねながら理解を深めている。
- 参観日・個人面談の活用
参観授業を通して、我が子の理解と意識の高揚を図る。また、懇談会において、PTAの学力向上推進委員会を中心に学力向上についての話し合いの場を設定し、現在の家庭での百ます計算等への取組状況等の情報交換を行う。
また、個人面談を通して、子どものよさや学習面についての話し合いをもつ。

3 成果と課題（今後の取組を含む）

(1) 成果

- 基礎・基本の確実な定着・習熟を図るための時間を確保したことにより、児童の力が伸びてきている。
- 読書活動の推進を図ったことで、児童の読書への関心が高まり、読書量も増えてきている。
- 複式学級の指導の充実を図る手立てを講じたことで、児童に学び方が身に付き、主体的に学習できるようになってきた。
- 保護者との連携を図りながら家庭学習の在り方について理解を深めた結果、少しずつ家庭学習の充実が図られている。

(2) 課題

- 9年間のスパンを見通した中学校との連携の在り方を見直す。
- 児童に基礎・基本を徹底させるために、授業や「基礎・基本の時間」の中での繰り返し指導の徹底を行う。